

書評

神経システムがわかれば 脳卒中リハ戦略が決まる 第2版

手塚純一、増田 司(著)

B5判・292頁

定価：5,280円(本体4,800円+税10%)

医学書院刊、2024年

「学ぶ手がかり」が惜しみなく収載された 待望の良書

〔評者〕増田知子 千里リハビリテーション病院セラピー部

中枢神経ではさまざまな機能をもち神経回路が相互に関連し、システムとして働いています。脳卒中者のリハビリテーションにおいて、この神経システムの理解が不可欠であることは、今や関連職の共通認識でしょう。また、脳画像を的確に読み解いて得られる情報が、効果的・効率的な治療の鍵を握ることも同様です。

しかし、臨床の理学療法士・作業療法士にとって、神経システムや脳画像の理解が大きな難関であることは間違いありません。神経回路の連関は難解かつ数が膨大であり、「学ぶ手がかり」を探すこと自体がすでに困難です。構造や機能局在の解説にとどまらない、臨床に役立つ神経回路の知識がまとめられた書籍が希少であることも、学びの障壁になっていると感じます。

本書は、そのような状況で奮闘する理学療法士・作業療法士に対して、まさに「学ぶ手がかり」を惜しみなく授ける待望の良書です。

まず、本書の最大の特長の一

つである症状別のインデックスが、神経システムの知識とその活用を格段に身近なものにしています。これは、複雑多岐にわたる神経回路を、目の前の患者さんの症状と即時に結びつけて探究できる、貴重なツールです。部位別インデックスと照合できる仕様も実践的です。このインデックスによって、臨床の傍らで手引きとするのに最適な、使い勝手のよさが際立つ一冊となっています。

全10章の構成のうち、脳の部位別に分けられた前半の7章では、驚くほど多くの神経システムが網羅されています。圧倒される情報量ですが、なかでも臨床で知識が必要な機能は重点的に解説されており、非常に実用的な内容です。後半の3章では、「複数の神経システムにまたがる脳梗塞・脳出血」といった、学び進んだ次の段階での神経システムの解説が用意されています。各章の終盤では、症例の脳画像の理解から評価、リハ戦略の組み立てまでの流れが提示されており、その章で得た知識を患者像に投影して、

知識を臨床に落とし込む際に役立ちます。

また、全ページにわたって色彩豊かな図表が豊富に配置され、システムを視覚的にイメージできます。脳の立体的なイラストにより、経路の走行や位置関係を3次元的に把握できます。第2版からは「みてわかるWeb動画」が収載され、さらに臨床とのリンクが強固になったと感じます。

神経システムと脳画像に関して、これほど系統立てて整理し、リハ戦略へと導く書籍の著者が、ともに臨床の理学療法士であることには、驚きを禁じ得ません。その一方で、お二人が強い熱意と責任感をもって臨床経験を重ねられてきたからこそ生まれた構成・内容であると感じます。手塚純一先生、増田司先生の類いまれな探求心と脳卒中リハへの真摯な取り組みの結晶である本書が、リハ関連職を通じて多くの脳卒中者のために役立てられることを切に願います。

